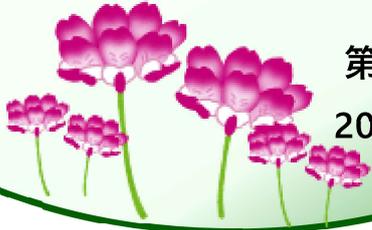


# 図書館かがわ

—香川県立図書館報—



第150号

2026年3月



## —「健やか生活応援講座」を開催しました。—

令和8年2月19日(木)に「睡眠をキホンから知ろう！～中高年に多い睡眠障害を中心に～」をテーマに、香川大学医学部精神神経医学講座講師の石川一郎先生をお招きして「健やか生活応援講座」を開催しました。



31名の方が参加され、加齢による睡眠の変化や不眠の原因と治療、睡眠によい生活習慣などについて学びました。質疑応答では「なかなか寝付けず、いろんなことを考えてしまうがどうしたらよいか」、「睡眠時無呼吸症候群ではなくても、ひどいびきは治療した方がよいのか」など、参加者からのたくさんの質問があり、先生から一つ一つ丁寧なアドバイスをいただきました。

参加者からは「今日から生活習慣を見直し、もっと健康になりたい」「不眠の原因は様々だということが判った」などという感想をいただきました。

## レファレンス日誌から 第23回

### 「結婚式スピーチ本」は絶滅危惧種？！

昭和60年代から平成の初め頃「結婚式のスピーチの本はあるか？」という質問をよく受けていた記憶がある。しかし、最近、とんとそういう質問を聞かない。

厚生労働省の人口動態統計によると、2024年の婚姻件数は約48万5千組でピークの1972年(約110万組)の半分以下に減少している。少子高齢化とよく言われるが、当然結婚式も減っている。もし結婚式のスピーチをすることになっても、お手軽にネットで例文を探したり、AIに作文してもらったりできる時代なので、図書館への質問がないのも当然かもしれない。

最近の「結婚式スピーチ本」の状況が気になって新聞記事を調べると、2018年5月の記事(※)に次の記述を見つけた。

「…現代のスピーチ集のトレンドでも探ろうと、東京駅近くの大型書店に出かけた。ネットでも簡単にスピーチ例が探せる時代だというのに、実用書コーナーに予想を上回る48冊が並んでいた。『結婚式スピーチ500集』を出した金園社の本も健在。同社担当者は「爆発的とはいきませんが、いつの時代もコンスタントに売れます」という。…」

大きな本屋にはまだ売っているんだねと少し安心したものの、これも2018年、7年くらい前のお話。当館の最近の事情を調べてみると2016年以降「結婚式スピーチ本」は受入されていなかった。

出版情報を検索してみても確かに近年ほとんど出版されてないことがわかった。どうやら「結婚式スピーチ本」が絶滅危惧種なのは間違いないようだ。

※参考文献(サザエさんをさがして)結婚式のスピーチ 長いだけは絶対にダメ(斎藤健一郎)  
朝日新聞 2018年05月26日 朝刊 週末be・b03

# Out of KidZania in かがわ

令和8年3月1日(日)サンメッセ香川において、「Out of KidZania in かがわ」(主催:株式会社百十四銀行)が開催されました。「Out of KidZania」とは、子ども達にリアルな体験をしてもらいたいという想いから2007年に誕生したプログラムで、子ども達がそこで働く人と直接かかわりながら仕事をするものです。

「Out of KidZania in かがわ」では、県内の小中学生を対象に、43種の中から好きな仕事を体験でき、香川県からは、「図書館司書の仕事」(県立図書館)、「移住コーディネーターの仕事」(地域活力推進課)、「警察官の仕事」(香川県警察)の3つの職業体験ブースを出展しました。スタッフも事前に研修を受け、この体験プログラムは、子ども達を同じ職場で働く「職場の後輩」として迎え入れ、スタッフは職場の先輩として、さんづけで読んだり丁寧な言葉遣いをするなどの心構えや接し方、仕事の内容ではなく意義ややりがいを伝えることを意識しながら進めることを学びました。



「図書館司書の仕事」では、小学1年生から中学2年生の24名に参加いただきました。1度に6人の子ども達がエプロンと名札を付け、本の貸出・返却、配架作業、レファレンス業務の3つの仕事を体験しました。本の請求記号ラベルをみて本を書架に戻したり、レファレンス業務では、スタッフが利用者役となり一人ずつに質問をし、子ども達は回答が載っている本を探したりしました。



参加した子ども達はみんなスタッフの説明に真剣に耳を傾け、一つひとつの作業に一生懸命取り組んでくれました。「図書館司書の仕事は、本を貸したり返したり以外の仕事があることが分かった」「本を探すのは思っていたより難しかったけれど、見つけたときはとても嬉しかった。楽しかった。」などの感想をいただきました。

このイベントを通して、図書館司書の仕事や図書館の役割について、子ども達に知ってもらい、興味を持ってもらう良い機会となったと感じています。また、私たち自身も「図書館司書」の職業について再認識するよい機会をいただいたと感じています。今回の体験が、子ども達にとって将来の職業選択や図書館をより身近に感じてもらう一助となれば幸いです。